

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 22, No. 4 神奈川県立生命の星・地球博物館 Dec., 2016



関東地震で動いた巨石 — 久野石の石切場跡 —

小田原市久野 わるさわ 和留沢地区

たぐちきみのり
田口公則（学芸員）

地域の石材、久野石の石切場跡の現場です。壁の表面に、多数の掘削痕が残っています。久野石は、比較的柔らかい火山礫凝灰岩ですので、手作業での切り出しが可能でした。石切場の分布は、箱根火山東麓の久野川上流域のごく狭い範囲に限られています。「かま石」と呼ばれるように、かまどや七輪の素材として使われたほか、石倉、石段にも利用されました。地域の石を地域で利用する、いわば地産地消の石材であったようです。

写真上部の数 m もの巨石が壁面に対して大きくずれています。これは大正関

東地震（1923 年）の際に動いたためです（元石工の小林氏私信）。この巨石の反対側には、別の石切場があり高さ 8 m ほどの壁となっています。企画展「石展2」のチラシでその様子がわかります。石切場の壁がずれたことは、壁下で作業する人たちには脅威だったことでしょう。大正から昭和にかけて、盛んに採掘された久野石も、ガスの普及とかまどの減少により、昭和 30 年代までにその役目を終えていきました。

